

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 整数、式と証明	記述	25	100分
II 平面ベクトル、極限	記述	25	
III 微分、積分	記述	25	
IV 数列、確率	記述	25	
合計		100	

【出題の基本方針】

高校数学における基本的概念の理解度、計算力に加え、論理的思考力も含めた数学の総合的学力を評価するため、穴埋め形式によって様々な分野から出題した。

【学習のポイント】

- 各単元の基本的概念を理解することが第一歩である。概念の定義や性質を憶えている必要があるが、ただの暗唱では意味がなく、必要な時に使える形で覚えていなければならない。そのために、各単元の練習問題が有効である。ただ機械的に正答を求めるのではなく、各概念の定義や性質を意識しながら解くことが重要となる。
- 次は各単元の概念を使いこなすことが目標となる。各概念についての経験の幅の広さが重要である。一つの問題に対しても図を使って考えたり、具体的な値を代入して考えたりするなど、イメージや実感を持って問題を解くことによって、より多くの経験を積むことができる。また、すぐには解けないレベルの問題について、試行錯誤をしながら焦らずにじっくり考えてみることも有効である。複合問題と呼ばれるような複数の単元の概念に関連した問題を解けることは一つの基準になる。
- 問題をよく読み、内容を理解することは前提である。数学の問題文は冗長性が無いが極めて低いという傾向にあり、拾い読みは通用しない。普段から問題の意味をきちんと理解する習慣を身につけてほしい。
- 字は読めるように書こう。こだわり過ぎる必要はないが自分や伝えたい相手が読み間違えるようではもったいない。これも普段から習慣化しておこう。